一方で織物従事者である織子の高齢化が進む中、市内の事業所では、手作業の専門技術を継承する担い手不足が懸念されています。令和3年度は、商業振興としての八重山ミンサー織製品の生産力確保およびブランディングに資する織子養成の支援としまして、養成講習期間中の支援金の給付に取り組んでまいります。

豊かな風土の中で育つ「いしがき」

5．はぐくむ

教育現場におけるＩＣＴを基盤とした人材育成を目指すＧＩＧＡスクール構想につきましては、児童生徒1人に1台のタブレット型端末、市立小・中学校における高速大容量のネットワーク環境の構築等に向けて取り組んでまいりました。令和3年度は、本構想の目指す「多様な子ども達を誰ひとり取り残すことのない、個別最適化された学び」の実現に向け、本市の学力向上関連施策と連携しつつ、適切な運用に取り組んでまいります。個別最適化された学びの一つとしまして、遠隔・オンライン教育の実現により、学びにおける時間や距離などの制約の解消が期待されます。また、コロナ蔓延期等の在宅授業等を想定した将来的なオンライン型学習システムや統合型校務支援システムの導入に関する検討を行ってまいります。

学校給食費助成につきましては、令和2年度は、従来の助成に加えて新型コロナウイルス感染拡大への経済対策として、1学期の学校給食費無償化を行いました。令和3年度も、保護者の負担軽減及び子育て支援の増進を図るため、第3子以降の児童生徒に対する全額助成及び全児童生徒に対する助成を引き続き実施してまいります。

不登校やひきこもりに対する支援につきましては、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者の自立に向け、子ども若者相談会の充実を図るほか、石垣市子ども・若者支援地域協議会等の支援機関と連携強化を図り、包括的、継続的な相談並びに支援等を実施してまいります。

また、不登校の未然防止や早期発見・早期対応を行うため、引き続きスクールライフサポーターを配置し、登校支援や学校内での居場所づくり等、学校・家庭と連携し、学校、学級復帰へ向け必要な支援を実施してまいります。

新石垣市立八重山博物館建設につきましては、有識者会議を設置し、基本計画の策定に向けて取り組みを進めてまいります。

生涯学習の推進につきましては、地域公民館や各種団体と連携し、ライフステージに応じた本市主催の生涯学習講座を新たに開設し、皆で活き活き学び高め合う生涯学習社会の確立に努めてまいります。

図書館の充実につきましては、遠隔地に居住する皆様への図書館サービス強化のため、２５００冊が積載可能な移動図書館専用車両を導入し、図書館職員による出前サービスに取り組んでまいります。

市民一人ひとりが輝くスポーツの振興につきましては、「石垣市スポーツ推進計画」に基づき、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも・どこでも・いつまでも安全に親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ創出への取り組みや、国内トップアスリートの経験を有する指導者等によるスポーツ教室の開催等、市民に夢と希望を持っていただける取り組みを図ってまいります。

市史編集事業につきましては、本市の昭和末から平成期の動静をまとめる「市政のあゆみ」を、令和4年度中の発刊を目指し、編集作業を進めてまいります。

人をもてなすふれあいの「いしがき」

6．交　流

沖縄本島へ通院が必要な難病患者やご家族の渡航、或いは大会等へ参加のため渡航する児童・生徒の派遣にかかる経済的負担軽減を図り、更に在沖郷友会の活動拠点となる八重山会館整備につきましては、これまで内閣府の支援を受け、官民連携による整備を検討してきました。民間事業者との連携による整備を目指し、引き続き竹富町、与那国町と取り組んでまいります。

男女共同参画につきましては、「お互いを尊重しだれもが個性と能力を発揮できる　安心のまちいしがき」の実現にむけ、啓発活動を推進してまいりました。令和3年度は、石垣市女性団体ネットワーク会議との共催により、節目となる「第20回まるざーフェスティバル」を開催し、幅広い分野で活躍している女性団体の活動紹介及び相互の情報共有とネットワークの構築の更なる拡充に努めてまいります。

平和行政の推進につきましては、悲惨な戦争の記憶を風化させず、平和の尊さ等を学ぶために、八重山戦争マラリアの体験談や石垣市平和大使による朗読を収録したＤＶＤを市内小中高校に配布し、若い世代が戦争と平和について考える機会を創出しました。令和3年度も引き続き、小中高校生の若い世代を含めた市民を対象に、平和フォーラム等様々な行事への参加を継続的に呼びかけ、平和への思いを市内外へ発信し、世界恒久平和を目指す社会づくりにつなげてまいります。

地域活動・協働のまちづくりにつきましては、市民憲章運動推進全国大会が10月に本市で開催されます。大会を通して、市民憲章の基本理念である市民参画による地域づくりがより一層盛り上がるよう、全国大会の成功に向けて支援・協力してまいります。

自立した行政運営の実現

7．行財政改革

行財政の健全化に重要となる市税等の徴収につきましては、「納めやすい環境づくり」の更なる充実を図るため、令和3年度より新たに24時間いつでもどこでも簡単に市税や保険料を納付できるスマホ決済システムを導入します。

国におきましては、令和3年9月にデジタル庁の設立が決定しました。今後は、民間企業のみならず、行政においてもデジタル化の動きが加速すると考えられます。デジタル化の推進は、私たちの生活に様々な利点をもたらします。本市におきましては、宜野湾市、名護市の2市と、業務効率化及び市民サービス向上を目的にシステム共同利用の連携を図ってきました。令和2年11月には、「沖縄自治体クラウド・デジタルファースト共同宣言」を3市共同で行い、人工知能技術を取り入れた文字認識機能であるＡＩ-ＯＣＲとロボットによる業務自動化を可能とするＲＰＡの導入実証実験を開始しました。令和3年度は、共同利用のメリットを活かし、デジタルによる効率化を目指してまいります。

貴重な自主財源であるふるさと納税の推進につきましては、令和2年度の寄付額が過去最高となる3億7千万円を突破しました。全国の皆様から頂いた寄付金は、本市のまちづくりのために活用させていただいております。有用な施策を今後も展開していくためにも、引き続きふるさと納税寄付金の募集をおこなってまいります。

8．予算編成と予算規模

令和3年度当初予算編成に当たりましては、新型コロナウイルス感染症の動向とその影響などを見極めながら、社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応可能な予算執行を目指すとともに、持続可能な行政運営を堅持し、真に必要な行政サービスを安定的かつ効果的に提供する予算編成を行いました。

一般会計予算の特徴として前年度と比較しますと、歳入におきまして、自主財源の柱である市税は、新型コロナウイルス感染症の影響による企業収益の悪化や個人所得の減少により市民税の減少が予測され、地方交付税におきましては約1億8千万円の減少を見込んでおります。歳出におきましては、新市庁舎建設推進事業費や乳業施設高度化整備事業費が減額となる一方で、ごみ処理施設基幹的設備改造事業費や新川市営住宅建替、石垣小学校校舎新増改築事業費等の増額を見込んでおります。

令和3年度一般会計の総額は、３３６億５３００万円で令和2年度当初比４・４％の減となっております。主な内訳といたしましては、総務費３９億２１８３万円、民生費１１８億３２８５万円、衛生費28億４７２１万円、農林水産業費27億１０９０万円、商工費５億７４０２万円、土木費49億５１５４万円、消防費７億４２２６万円、教育費37億９１３６万円などとなっております。

特別会計及び公営企業会計の総額は、１６８億６３３２万円で前年度当初比１・０％の増となっております。

むすびに

私たちが住むこの石垣市の財産を、未来の子ども達へ引き継ぐ為には、今私たちができることにしっかりと取り組む必要があります。そのキーワードとしてＳＤＧｓという言葉があります。これは、２０１５年の国連総会において採択された、持続可能な開発のために必要不可欠な２０３０年までの新たな行動計画の中に示された持続可能な開発目標を意味します。本市は、内閣府より「２０２０年度ＳＤＧｓ未来都市」及び「自治体ＳＤＧｓモデル事業」に選定され、２０３０年の本市のあるべき姿を示しました。その実現に向け、様々な課題の解決を目指し、市民、団体、企業並びに行政が一体となった取り組みを進めてまいります。

本市の将来を長期的な視点に立って展望し、まちづくりの方向性を総合的・体系的にまとめたまちづくりの最上位計画である「第４次石垣市総合計画」は、令和3年度に計画期間が最終年度を迎えます。第４次総合計画をしっかりと検証したうえで、令和4年度からの10ヵ年計画となる「第５次石垣市総合計画」の策定を行ってまいります。

また、沖縄県におきましては、令和3年度末で期間満了となる「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に続く新たな沖縄振興計画の策定に向けた作業が進められています。本市は、離島に起因する過重な費用負担等、離島自治体として地理的不利性による課題が残されています。これらの課題を解決する施策を新たな沖縄振興計画に反映させるべく、沖縄県へしっかりと提言してまいります。

ここまで、令和3年度の市政運営を行っていくにあたり、主だった施策を述べさせていただきました。

令和3年度は、私にとりまして市長3期目の最終年度となります。これまで、市民の皆様にお約束したマニフェストを軸に、「日本一幸せあふれるまち石垣市」の実現に向けて全力で取り組んでまいりました。総仕上げとなるこの一年、皆様にお約束したことを必ず実現するべく、引き続き職員一丸となって市政運営に取り組んでまいります。

最後に、市民の皆様をはじめ、議員各位のご理解とご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げ、私の令和3年度の施政方針とさせていただきます。